

<展覧会 開催のお知らせ>

UNPEL GALLERY（アンペルギャラリー）は、運営母体であるあいおいニッセイ同和損保のメセナ活動として、学生や卒業後作家としてのキャリアをスタートした若手の支援に加え、日本画の伝統に根差しながら、その可能性を模索すべく日夜取り組んでいる中堅の作家やグループの活動成果を紹介しています。

今回は、明治期以降新しく流入した西洋画との対立軸として変容発展してきた「日本画」を、「解体」という形で問い直し再構築を試みるグループ「THAN」の展示をご覧ください。

■展覧会概要

タイトル	『解体新画亭・0』（かいたいしんがてい・ゼロ）
会期	2024年10月5日（土）～10月27日（日） 11:00～19:00（月曜定休・最終日17:00まで）【入場無料】
会場	UNPEL GALLERY 東京都中央区日本橋 3-1-6 あいおいニッセイ同和損保八重洲ビル 1F
参加作家	足立正平（あだち しょうへい）、直野恵子（なおの けいこ）、 佛淵静子（ほとけぶち しずこ）、立尾美寿紀（たちお みずき）
展覧会内容	「絵画の解体」 この展示は、近代の西洋画との対立軸を通して形成された現在の日本画を、その過程で失くしたものの、忘れてしまったものを「解体」を通して探る企画です。 本来日本の絵とは、どのようなものだったのか。描かれた絵がどう仕立てられ、傷んだらどう修理をして現在まで繋いで来たのだろうか。 現代を生きる作家4名の作品とともに、名もなき画家によって描かれ、打ち捨てられる運命にあった屏風や調度品を物理的に解体し、仕立ての仕組みを露わにすることから試みます。 また、この展示の象徴として、屏風の骨、仮張り、現代の木製パネルなどを利用して実験的な東屋「解体新画亭」を設え、ここを通して絵画の居場所や役割を問い直したい。 作品は、各人150号、屏風、軸装など1人3～4点の他に屋根の無い東屋を中央に据えます。
主催	新古日本画研究会 THAN
企画	UNPEL GALLERY

<ご連絡・お問い合わせ先>

ギャラリーオフィス 11:00～19:00 月曜定休（担当 / 井上・内城）

E-mail / tsubaki@unpel.gallery <https://unpel.gallery/>

TEL / 03-3548-7780 FAX / 03-3548-7781 * お問い合わせは E-mail にてお願いします

■作家プロフィール

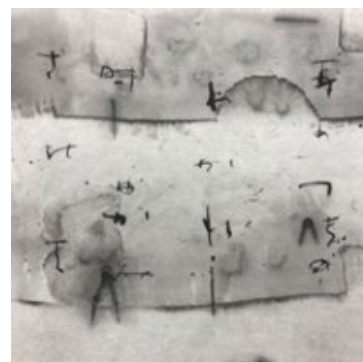
足立正平 （あだち しょうへい）

1976 年 東京都生まれ 東京都在住
1999 年 多摩美術大学美術学部日本画科 卒業
2000 年 中国・中央美術学院（中国政府給付奨学金奨学生）

2018 年 個展「影-ひかり-」新宿高島屋美術画廊 / 東京
2022 年 「墨-モノクロームの色-」Hideharu Fukasaku Gallery
Roppongi / 東京

【コメント】

画材の歴史的推移と仕立ての成り立ちが、表現とどう結びついているのか、
がいつも気になっています。そして、中国に於ける山水、花鳥といった時代
や個々人を超越した共通のテーマが、なぜ日本にないのか、という疑問を
持ちながら制作を続けています。



立尾美寿紀（たちお みずき）

1973 年 東京都生まれ 千葉県在住
2001 年 多摩美術大学大学院修士課程絵画専攻日本画領域 修了
中野嘉之氏に師事

2014 年 大作公募 Artist Group - 風 - 入賞（`16, `18）
東京都美術館 / 東京
2001-22 年 個展 ガレリアアセン、もみの木画廊、柴田悦子画廊
たましんギャラリー、横浜市民ギャラリー
2023 年 トリエンナーレ豊橋 星野真吾賞展 入選（`01）

【コメント】

草花や風景のスケッチと何気ない毎日の小さな「気づき」をもとに、花の伝承
や物語、詩歌など考察し、抗いようのない周縁的な事物を絵にしています。
今回の展示では、お題である、これまでは観て感心するばかりだった「仕立て」
の柔軟性や簡易性、仕組みの興味深さ、美しさを改めて識りながら、絵の居
場所を探したいと思います。



「春雷」
2024 年制作 53.0×33.3cm
紙、墨、岩絵の具、金箔

■作家プロフィール

直野恵子（なおの けいこ）

- 1972 年 東京都生まれ 千葉県在住
1997 年 女子美術大学芸術学部絵画科日本画専攻 卒業
個展 21 回（卒業後ほぼ毎年開催）
- 2021 年 グループ展「線と余白とその間」THAN
柴田悦子画廊／東京 以降、毎年開催
2023 年 個展 柴田悦子画廊／東京

【コメント】

変わりつづける自分で在りたいと思っています。
この掲載作品に添えて…
色々と難しい世の中ですが、
朧月を眺めてほっとするような心持ちになって頂けたら幸いです。



「波と月」
2024 年制作 29.8×30.1cm
紙、墨

佛淵静子（ほとけぶち しずこ）

- 1974 年 東京都生まれ 新潟県在住
2000 年 多摩美術大学大学院修士課程絵画専攻日本画領域 修了
- 2000-23 年 個展 ガレリアラセン、柴田悦子画廊、GALERIE SOL、
潺画廊、ギャラリー名芳洞、Gallery Suchi、楓画廊
2009 年 第 44 回昭和会展招待 日動画廊 / 東京
2021 年 第 10 回菅楯彦賞展出品 鳥取県倉吉博物館 / 鳥取
2022 年 「人のかたち 刹那のかたち -阿部勝則・佛淵静子-」展
星と森の詩美術館 / 新潟

【コメント】

ダンサー、身近な人をモデルに絵を描いています。人物の表情、特に人体の表情に興味があります。全身のムーブメントや、モデルさんの体の各パーツ、首や肩や髪、つま先やふくらはぎの表情。人のかたちは美しく同時にどこかおかしみがあって、描いていて飽きません。
絵を描くのに使う墨も人物の表情を出すのに適していて、しなやかさ、強さ、描かれた人物の内面にも届くような気がして、この先もっと仲良くなっていきたい画材です。



「あざさゐのまりこがゐる日の海へ（雀羅）」
2023 年制作 72.7×60.6 cm
麻紙、墨、水干、銀泥